

全国学力・学習状況調査を活用した
授業づくり参考資料
【小学校】



掲載事例

【国語】

・米作りについて説明する文章を書く 1 二

【算数】

・図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること(テープ) 2 (3) (4)

・目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりすること(運動調べ) 4 (3)

活用にあたって

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

大阪府教育センター 令和6年3月

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力をつけるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な児童の状況

「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



全教員で問題を解く



問題や解答を交流する



・全学級で取り組む指導の手だてを構想する

・教科等横断的に取り組む指導の手だてを構想する



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

文部科学省 調査結果の活用・分析の取組

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1344286.htm

国立教育政策研究所「教育課程研究センター」全国学力・学習状況調査

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

1. 問題の概要

出題の趣旨

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容 第5学年及び第6学年 B 書くこと 工

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

評価の観点

思考・判断・表現



(正答の条件)

- ① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。
A【川村さんの文章】から分かること
B【カード④】から分かること
- ② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。
60字以上、100字以内で書いている。

【川村さんの文章】
学校の田んぼで取り込んだ米作りの問題点とその解決方法
今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうゆかくすることができました。しょうゆかくまで、いくつかの問題がありました。その中でも特に悩んだ問題点とその解決方法について説明します。
5月下旬に学校の田んぼに注文を頼みました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けましたが、いざいざに雑草が増えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼでよく聞いてみました。つきからは7月1日から15日までです。
右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

このように取り組み、9月の下旬にお米をしょうゆかくすることができました。

【カード④】
7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしょうゆかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】
7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の□に学校の「米作りの問題点とその解決方法」について書くようにしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。後の条件に合わせて書きましよう。

2. 児童の状況 (解答類型抜粋)

正答	解答類型	大阪府
1	①A B、②、③を満たしている。	24.2%
5	①B、②は満たしている。①Aは満たしていない。③は不問。	20.0%
4	①A、②は満たしている。①Bは満たしていない。③は不問。	17.8%

反応率順

37.8%(解答類型5及び4)の児童が、条件①Aまたは条件①Bを満たさずに書いている。問題の条件には、「川村さんの文章のグラフとカード④のそれぞれからわかること」を書くよう示されている。二つの情報に触れて考えをまとめることにおいて課題があると考えられる。

3. 授業づくりのポイント

- ✓ 見通しをもって書く活動に取り組みせましよう。
例:表現する上で、「情報の収集」「構成の検討」「考えの形成」「記述」等、どの段階で児童のつまづきが見られるのかを把握する。「誰に」「何のために」書くのか、相手意識や目的意識を明確にして言語活動を設定し、見通しをもって書くことができるように指導する。
- ✓ 図表やグラフのよさを実感させ、自分で書いた文章を整えさせましよう。
例:例えば、6年生においては、内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方や図表やグラフの用い方は適切か等、指導事項に照らした観点を明確にして文章を整えるように指導する。その際、図表やグラフを用いることのよさを実感させ、自覚的に図表やグラフを用いて書き表し方を工夫できるようにする。
- ✓ 情報と情報の関係を捉えて考えをまとめる経験を積ませましよう。
例:複数の情報を整理して考えをまとめる活動を意図的に取り入れる。その際、他教科等でも活用できる資質・能力が育まれるよう意識する。

【小学校算数】2 (3) 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること(テープ)

(テープを切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く)

1. 問題の概要

出題の趣旨

正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容 第3学年 B 図形(1)ア(ア)

二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。

学習指導要領の領域・内容 第5学年 B 図形(1)ア(イ)

三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。

評価の観点

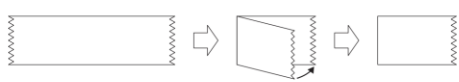
知識・技能

(3) えいたさんたちは、下のようなつくり方で三角形をつくります。

ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下のAの角の大きさをそれぞれがうが大きさにしました。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



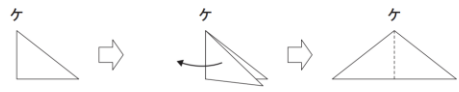
② 右の図のように、折り目のはしを点ケとします。



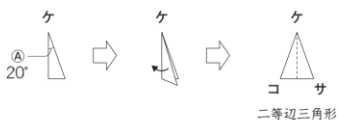
③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。



④ 開くと三角形ができました。



わたし
ゆいな
私は、Aの角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



わたし
わたる
私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、Aの角の大きさをゆいなさんと同じう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、Aの角の大きさを何度にする
ればよいですか。
答えを書きましょう。

正答

30°

2. 児童の状況 (解答類型抜粋)

	解答類型	大阪府	全国
1	30°	25.6	24.9
2	60°	33.0	33.3
3	45°	7.5	7.8
4	90°	4.9	4.8
5	20°	3.3	3.1
6	40°	13.3	13.6
99	上記以外の解答	8.7	8.9
0	無解答	3.6	3.7

正答

Aの角がテープを切って開く前の角であることに着目できていないと考えられる。

3. 授業づくりのポイント



具体物を活用して、三角形について気づいたことを友だちと話し合う活動を設定しましょう。

例: 「紙を折って、切り、開く」という流れで作った二等辺三角形や正三角形について、気づいたことを交流することで、二等辺三角形や正三角形の性質に気づけるようにする。



二等辺三角形の特徴と正三角形の特徴とを比べることで、二等辺三角形と正三角形との関係に気づかせるようにしましょう。

例: 二等辺三角形や正三角形の、辺の長さや角の大きさなど、図形の構成要素を比較し、話し合うことで、正三角形が二等辺三角形の特別な場合であり、二等辺三角形に条件を加えることで、正三角形を作ることができる、ということに気づかせる。

【小学校算数】2 (4) 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること(テープ)

(テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く)

1. 問題の概要

出題の趣旨

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

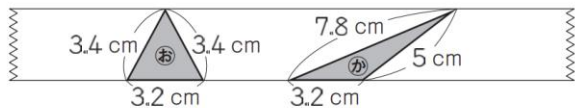
学習指導要領の領域・内容 第5学年 B 図形(3)イ(ア)

図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

評価の観点

思考・判断・表現

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

正答例

【番号】3

【わけ】三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

2. 児童の状況 (解答類型抜粋)

	解答類型	正答	大阪府	全国
1	3と解答し、底辺と高さがそれぞれ等しいことを書いているもの		20.5	20.8
2	3と解答し、底辺または高さのどちらかだけが等しいことを書いているもの		10.0	9.4
3	3と解答し、上記以外または無解答のもの		7.4	7.1
4	1と解答しているもの		5.3	5.6
5	2と解答しているもの		21.6	22.0
6	4と解答しているもの		27.2	26.8
99	1～6以外の解答		4.8	4.6
0	無解答		3.6	4.0

三角形の構成要素である底辺と高さの関係を捉えられていないと考えられる。

3. 授業づくりのポイント

- 既習事項を活用して、求積の方法を説明・記述するために見通しを持たせましょう。
 例: 長方形→平行四辺形→三角形→台形の流れのように、既習事項を活用して求積の方法を考えられるように既習事項を振り返らせる。
- 図形の構成要素の関係に着目しながら、求積の方法を説明させるようにしましょう。
 例: 三角形の底辺や高さを利用して求積の方法を説明する際に、底辺と高さの関係が成り立つ理由も含めて説明させる。
- いろいろな三角形について、求積の方法を説明させる学習活動を設定しましょう。
 例: 底辺や高さの向きが水平でない三角形や、求積の際に活用しない辺の長さも示された三角形など、いろいろな三角形の面積の求め方を説明する学習に取り組ませる。

【小学校算数】4 (3) 目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりすること(運動調べ)

(二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く)

1. 問題の概要

出題の趣旨

示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容 第3学年 D データの活用(1)ア(イ)

棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。

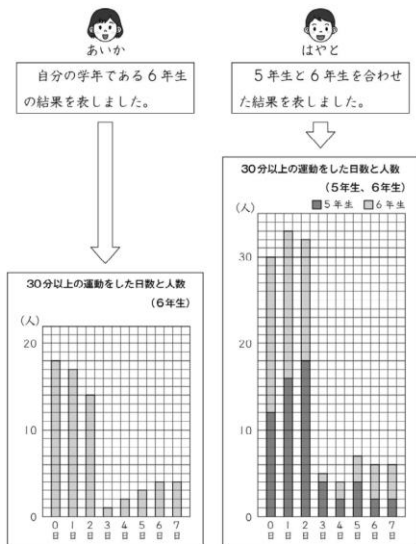
学習指導要領の領域・内容 第3学年 D データの活用(1)イ(ア)

データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現すること。

評価の観点

思考・判断・表現

- (3) あいかさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表すことにしました。



あいかさんたちは、左の2つのグラフをもとに、気づいたことについて話合っています。

あいか: どちらのグラフも「0日」、「1日」、「2日」の人数が多いということが同じですね。

はやと: でも、2つのグラフをくわしく見ると、ちがうところもありますね。

そこで、あいかさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがうところを、次のようにまとめました。

「0日」についてまとめたこと

「0日」に着目すると、次のようなちがいがあります。
6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

「0日」についてまとめたことと同じように、「1日」に着目してみると、どのようになりますか。
下の□の中に、「6年生のグラフ」、「5年生と6年生を合わせたグラフ」、「番目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

「1日」についてまとめたこと

「1日」に着目すると、次のようなちがいがあります。

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

正答例

6年生のグラフでは「1日」の人数が2番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「1日」の人数が1番目に多いです。

2. 児童の状況 (解答類型抜粋)

正答の条件

- (A): 6年生のグラフでは、2番目に多いことを表現している。
(B): 5年生と6年生を合わせたグラフでは、1番目に多いことを表現している。

	解答類型	正答	大阪府	全国
1	(A)と(B)の両方を記述している。		53.7	56.2
2	(A)と、5・6年生のグラフで「1日」の人数が2番目に多い、と書いている。		1.1	1.1
3	(A)だけを記述している。		2.5	2.4
4	(B)だけを記述している。		5.1	4.9
99	上記以外の解答(具体的な人数を書くなど)		23.0	21.3
0	無解答		0.3	13.8

5年生のグラフの「1日」の人数の順位と、5・6年生のグラフの「1日」の人数の順位の両方に着目して比べられていないと考えられる。

3. 授業づくりのポイント

- ✓ 複数のグラフを比べ、同じところや違うところを見だし、考察したことをクラスで共有できるようにしましょう。

例: 一人一台端末などを活用して、複数のグラフについて子どもたちが気がついた多くの考えを効率よく共有できるようにする。

- ✓ 友だちの考えを聞いて新たに気づいたことについて、他の友だちと話し合う学習活動を設定しましょう。

例: 子どもたちが友だちの考えを理解し、その考えを活用して再びデータを分析・考察することで、批判的思考の育成に繋がられるようにする。

- ✓ 問題場面の目的に応じてどのような方法でデータをまとめれば良いかを考え、友だちと交流し、深める学習活動を設定しましょう。

例: 目的に応じて、どのようなグラフでまとめ、分析すれば良いのかを考えたり、同じデータでも伝えたいことによって、グラフの表し方を変えたりすることの良さに気づけるようにする。